

柱6 環境と人と動物のより良い関係づくり

人の健康は、健全な環境の下で生産された健康な家畜その他の安全な農林水産物等を食べることによって維持されています。健全な環境を維持するには、農林水産物の生産及び消費段階において、環境への負荷を軽減していくことが必要です。

また、食の安全・安心や環境への負荷の軽減にもつながる地産地消や、農林水産物への理解向上につながる食育について県民へ普及啓発を行います。

さらに、微生物の中には、人や動物と共生し、その健康に貢献する微生物も存在することから、その活用を図ります。

★主な施策

- ・環境に配慮した農林水産業の推進
- ・食肉の安全確保 ・食品ロスの削減
- ・地域や家庭における食育の推進
- ・「ふくおか農林漁業応援団」づくりの推進



地産地消を推進します

柱7 ワンヘルス実践の基盤整備

県民参加型イベントの開催や、ワンヘルスの理念に基づく活動や環境の実例を学んだり体験したりできる「ワンヘルスの森」や「ワンヘルス啓発施設」の活用を促進することで、ワンヘルスの普及啓発を推進します。また、ワンヘルスの推進に取り組む旨を宣言した事業者を登録する「ワンヘルス宣言事業者登録制度」を創設したり、ワンヘルスの実践的な活動に取り組む民間団体を支援したりするなど、県民のワンヘルスへの理解を促進します。

教育面では、小学校、中学校、高等学校などの児童生徒へのワンヘルス理念の浸透を図るため、リーフレットなどの教育啓発資料や教育教材の作成・配布、研究協力校におけるワンヘルス教育のモデル的な教育等を通じて、ワンヘルス教育を推進します。さらに、「ワンヘルスセンター」を整備し、人獣共通感染症対策や薬剤耐性菌対策に関する調査研究、人材育成などを促進します。

★主な施策

- ・ワンヘルス実践的活動団体などへの支援 ・ワンヘルス教育の推進
- ・「ワンヘルスセンター」の整備

全世界で猛威を奮った「新型コロナウイルス感染症」をはじめ、「狂犬病」、「鳥インフルエンザ」、「SARS」などは、人と動物双方に感染する人獣共通感染症であり、私たち人間に甚大な危害を及ぼします。人口増加、森林開発、生態系の劣化や気候変動など、様々な分野にまたがる問題が要因とされる人獣共通感染症に対応するためには、ワンヘルスの理念に基づく総合的な取組が必要です。

人と動物（家畜、愛玩動物、野生動物の別を問わず全ての動物）の健康と環境の健全性は、生態系の中で相互に密接につながり、強く影響し合う一つのものと捉え、一体的に守っていく

「ワンヘルス」(One Health)

全5回でお届けしたワンヘルス特集も、今回で最後となります。福岡県が推進する、7つの柱を基盤としたワンヘルスへの取組が、少しでも皆さんにお伝えできたのなら幸いです。